



# 吉原祇園祭縁起

## おてんのさん

吉原祇園祭は、天神社、木之元神社、八坂神社、八幡宮、山神社、和田八幡宮の六社合同で開催されるお祭りで、地元では「おてんのさん(天王祭)」とも呼ばれ親しまれています。



**東海一の祇園** かつて東海道の宿場町「吉原宿」だった吉原本町通りを中心に約1km、200軒以上の露店が軒を連ね、20万人の人たちがこの2日間に集中します。

## 宮太鼓(みやだむりこ)

元々は、神輿が来ることを町内の若衆に知らせる太鼓なので「呼び太鼓」とも言い、小桴(こばち)の刻む一定のリズムに合わせて、主役の大桴(おおばち)が自由に、力強く太鼓を打ち鳴らします。

**太鼓自慢の腕の見せどころ** 綿密に演目を準備して披露する叩き手もいれば、その時に降りてきたものを思いつくままに表現する叩き手も。叩き手によって変わる音色は、一つとして



同じものはありません。息のあった二人の勇壮なバチさばきは一見の価値あり!

土曜日 16時すぎから、本町通りで三ヶ所に分かれて行われます。

## 神輿(みこし)

**荒々しいけんか神輿** 荒神(すさのおのみこと)の神輿だけに、「けんか神輿」と異名をとるほど荒っぽい神輿で、隣り合った神輿の境界に踏み入ることは御法度。危険ですから、あまり近寄らない方が良いですよ。

**笹神輿** 神輿の姿が埋もれてしまうほど山のように笹を取り付けるのが、吉原の神輿の特徴です。この笹を抜き取り輪にして家の軒先に飾ると厄払いになるという言い伝えがあり、青年は神輿巡行を終えると神輿から笹を抜き取っていきます。

**神輿を「揺する」** 吉原では、神輿は「担ぐ」ものではなく「揺する」と言う町内もあるように、辻や町境では言葉通り、神輿を激しく揺すります。こうした境界は災厄をもたらす神や病魔などが出入りする空間のため、そこで神輿を激しく揺すり、災厄を防ぎ祓うのです。



## 山車(だし)

**21台の様々な山車** 吉原祇園祭では、高欄型、江戸型山車や舞台屋台、全国的にも珍しい吉原雛壇型など、様々なかたちの山車が揃います。山車同士のすれ違いでは、相手に負けまいと強烈な音で太鼓や鉦を打ち鳴らし、町中を清めます。

**華やかな夜祭** 夜の曳き回しの時間になると、提灯に明かりがともり、山車は一層華やかさを増します。21台の山車が約1kmほどの本町通りに集まる様子は圧巻です。ライトアップされた美しい彫刻、響くお囃子の音、吉原の街は若い衆の熱気に包まれます。



制作年：昭和十二年六月  
型：江戸型人形山車  
出し：天神社社殿



制作年：昭和九年二月(平成八年改修)  
型：舞台屋台



制作年：昭和二十九年六月  
型：江戸型人形山車  
出し：鐘屋人形



制作年：昭和五十九年十月  
型：江戸型人形山車  
出し：御幣



制作年：昭和十一年六月(昭和三十三年改修)  
型：高欄型人形山車  
出し：鏡獅子人形



制作年：昭和九年二月(昭和三十六年改修)  
型：舞台屋台



制作年：昭和三十年代(昭和六十三年・平成十七年改修)  
型：舞台屋台



制作年：昭和三十年六月(平成二十三年改修)  
型：江戸型人形山車  
出し：金太郎人形



制作年：不明(昭和四十八年・平成十二年改修)  
型：屋台型人形山車  
出し：猿田彦人形



制作年：昭和十二年六月(昭和二十二年・六十年改修)  
型：屋台型人形山車  
出し：諺鼓鉦



制作年：昭和三十三年六月  
型：高欄型人形山車  
出し：狸人形(分福茶釜)



制作年：昭和三十三年六月  
型：江戸型人形山車  
出し：木之元神社社殿



制作年：昭和三十一年  
型：高欄型人形山車  
出し：桃太郎人形



制作年：昭和三十三年六月  
型：高欄型人形山車  
出し：牛若丸人形



制作年：平成十二年六月  
型：高欄型人形山車  
出し：ひよっこ・おかめ



制作年：昭和三十年六月  
型：江戸型人形山車  
出し：御神鏡



制作年：昭和三十四年六月  
型：吉原雛壇型人形山車  
出し：神明造社殿



制作年：昭和二十九年  
型：吉原雛壇型人形山車  
出し：こけし人形



制作年：平成二十四年十二月  
型：江戸型人形山車  
出し：明神鳥居



制作年：昭和二十八年六月  
型：吉原雛壇型人形山車  
出し：鳳凰・太鼓



制作年：昭和二十八年  
型：吉原雛壇型人形山車  
出し：王将駒